



## けんこう 処方箋

北海道対がん協会長 加藤 元嗣



# 早めが肝心 中高生のピロリ検診

なるべく若いうちにピロリ感染をチェックして、陽性であれば除菌治療を受けることが胃がん予防には重要です。それは幼少時のピロリ感染が長期に続くことで、萎縮や腸上皮化生などの胃炎の変化が強くなり胃がんが起こりやすい状態となるからです。年齢が高くなるほど除菌後の胃がん発生を完全に防ぐことができません。今回は一部の自治体で始まっている、中学、高校生のピロリ検診について紹介しましょう。

ピロリ感染の男子中学生が生涯に胃がんになる率は17%、女子中学生では8%とされていますが、除菌すれば将来の胃がん発症を防ぐことができます。通常胃がんは50歳以降に発症しますが、若年者胃がんといって20～30歳に悪性度の高い胃がんが起こることがあります。これは50歳以降の胃がん検診ではとても間に合わず、中学生の時に除菌するしか予防手段はありません。

また、子育て前の親が除菌すると、子どもへの感染を防げます。成人ではピロリ除菌前に内視鏡検査で胃がんがないかを確認するのが必要ですが、中学生での胃がん発症はまずはないので、内視鏡検査を省略してピロリ除菌が可能です。

中学生では成人と同じ診断法で感染診断ができ、体重30kg以上であれば成人と同じ除菌治療薬が使えます。小学生以下ではピロリ除菌後に再感染リスクがありますが、中学生ではそのリスクはほとんどありません。ピロリ検診は自治体ごとに実施されるので、市町村の境を越えて通学する高校では学校全体をカバーするのが難しくなりますが、義務教育の中学生のうちなら全員を対象にできます。また、中学生であれば、親が病院に連れてくるのがほとんどで、親のピロリ感染

イラスト・佐藤博美

にも併せて対応できます。

中学生への除菌治療は、自費診療で行なうか自治体が費用を負担している場合がほとんどです。佐賀県では全県で中学2年生にピロリ検診を導入していることを前回紹介しましたが、北海道は179自治体のうち58自治体が、中学、高校生のピロリ検診に取り組んでいます。

残念ながら人口10万人以上の道内9市で実施しているのは、函館、苫小牧、帯広にとどまります。未実施の自治体では、胃がんで苦しむ人を減らすためにもぜひ制度の導入を検討してもらいたいと思います。ピロリ検診は行政、学校、医師会の連携が必須で、日本ヘリコバクター学会の「自治体マニュアル」が参考になるでしょう。未実施自治体の中学、高校生でピロリ検診を希望される方は、ピロリ専門外来を受診するとよいでしょう。